

若手グローバル研究リーダー育成プログラム (実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：静岡大学（総括責任者：伊東 幸宏）

プロジェクトの概要

若手研究者育成のため、テニユアトラック制度の導入を軸とする人材システム改革を行う。創造科学技術大学院・電子工学研究所に人材システム改革特区「若手グローバル研究リーダー育成拠点」を設置し、若手研究者が自立的に研究できる環境（資源の優先配分、研究支援体制の充実、十分な研究スペースの確保等）を整備する。ポストは国際公募とし、採用審査等は学外の国際的な専門家を含めて行う等、透明性、公平・公正性の高い人事制度を確立する。4年目以降、学長裁量ポストで自主的取組を開始し、将来的にテニユアトラック制度を全学に導入する。テニユア取得後も研究教育能力の継続的向上のため、再審査制度・サバティカル制度を導入する。

(1) 評価結果

| 総合評価 | 目標達成度 | 国際公募・選考・業績評価 | 人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績) | 人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント) | 実施期間終了後における取組 | 中間評価の反映 |
|------|-------|--------------|---------------------------------|--------------------------------|---------------|---------|
| A | a | a | a | a | a | a |

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

自機関へのテニユア職採用は 100%を達成するとともに、外国籍研究者 2 名を教授職として採用するなど、明確な育成方針のもと優秀な若手研究者を採用し育成する制度設計が十分に機能していることは評価できる。今後は、テニユアトラック制（以下、「TT 制」という）が人文社会科学系を含めてより多くの部局に普及することを期待する。

- 目標達成度**：当初採用の 10 名のテニユアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）全員を教授及び准教授として昇任させて自機関に採用し、育成環境の十分な整備によって優秀な若手研究者を育成したことは評価できる。また、地域に密着した独創的な研究分野での人材の育成制度につなげており、継続して実施している TT 制が、今後も優秀な人材の育成システムとなることを期待する。
- 国際公募・選考・業績評価**：公募及び選考が適切に行われ、優秀な TT 若手の採用に成功しており、年次・中間評価には外部委員を含む委員会を構成し、公正で透明性の高い形で制度化を行っていることは評価できる。今後は、女性研究者への環境整備や教育経験の評価システムの確立など、本プロジェクトでの施策の成果を全学へ展開し、今後の TT 制の継続・定着に活かすことを期待する。
- 制度設計に基づく実施内容・実績**：メンター教員や研究支援者を配置する制度を構築し、また、TT 若手の連絡会を開催して多くの課題の解決を図るなどの TT 若手の育成制度を充実させ、世界初となる成果や研究を大市場への実用化に結び付けるなどの実績を上げて

いることは評価できる。

- **制度設計に対するマネジメント**：学長が制度設計、実施内容のマネジメント等に積極的に関わっており、多面的なシステムや制度の改革に PDCA サイクルを活用して成果を生み出している。また、TT 製の制度設計とその理解の浸透、公募・選考制度の革新、若手研究者の育成と評価システム改革等を通じて、機関としての戦略的研究の展開と二つのキャンパスの連携システムの構築につなげたことは評価できる。
- **実施期間終了後における取組**：TT 製についての学内理解も高まり、TT 製の諸規則を制定し、自主財源での TT 若手の採用計画を前倒しして行っていることは評価できる。今後は、人文社会系を含めた全学レベルでの TT 製の導入・定着が進展することを期待する。
- **中間評価の反映**：本プロジェクトに対する中間評価の指摘に適切に対応し、女性研究者への配慮の指摘に対しても改善を行い女性の TT 若手の採用に成功しており、中間評価は概ね反映されている。